



産まれたての雛は見るものすべてに興味津々です。

生産における重要な役割

(有)川俣シャモファームは平成18年に設立されました。雛は、(有)川俣シャモファームと1軒ある育すう専門農家で28日まで育て、12軒ある肥育農家に委託しています。育すうを専門的に行うのは、雛の時間が育てるのが一番難しいためです。

川俣シャモの生産の特徴は、(有)川俣シャモファームを中心に、町内で生産から出荷まで一貫した体制を確立しているところです。

県畜産研究所と研究して作成した飼育マニュアルにより、種鶏管理、孵化、専用飼料の給与方法、飼育密度を少なくしてストレスのない環境で育てることなど、飼育方法が一元管理されており、常に高品質で均一な川俣シャモを出荷できるようにしています。



卵を割らないように注意し採卵を行います。

成長のあゆみ

雛がかえってから1日～28日目の成長記録。
成長とともに体も大きくなり、色が濃くなっていきます。



3 おいしさの秘密 つのこだわり

【一元管理】

(有)川俣シャモファームの定めたマニュアルによって、種鶏管理、孵化、育雛、肥育から出荷まで、川俣町内で徹底した一元管理を実施しています。川俣シャモと呼べるのは、福島県川俣町で育てられたものだけです。

【専用飼料】

川俣シャモの肥育のために配合した専用飼料を与えています。飼料は全部で3種類あり、成長過程に合わせ飼料を与えます。福島県産の米や乳酸菌などの有用菌を与えています。

【飼育環境】

阿武隈山地の豊かな自然に恵まれた地で、平飼いでのびのび育てています。坪当たりの飼育羽数を少なくし、風が通る鶏舎でストレスのない飼育環境づくりをしています。

シャモで町を元気に

(有)川俣シャモファーム

代表取締役

斎藤 まさひろ 正博さん



川俣シャモの生産体制は、ほぼ確立されています。だから売上を伸ばしていくことが大事です。売上が増えて利益になることが分かれば、新規に川俣シャモの生産を始めたいという農家の方も増えていくはずですよ。たくさんの方に川俣シャモの生産に携わっていただき農業を活性化させ、川俣シャモを通じて町を元気にしていきたいです。

安心・安全な環境で育てる

採卵は毎日、午前と午後の2回行います。採卵後、卵を洗い、消毒、選別、冷蔵庫への保管を行います。その後、雛が健康的に産まれてこれるように、温度37・6度、湿度68%に保たれたふ卵器に入れ、雛がかえるのを待ちます。

雛がかえったら、病気にかからないようにワクチンを接種し、床暖房で温度が約33度に管理された育すう室に運び込みます。最初の4日間が今後の雛の成長に大きく関わってくるため、温度と湿度には常に注意を払い管理しています。



ふ卵器に入れてから21日目で雛がかえり、新しい命が誕生します。元気に産まれてきた雛を見て、生産者はほっと胸をなでおろします。

28日目には農家さんに引き渡されるので、それまで病気にかからないように12日目と27日目にワクチンを水に溶かして飲ませたり、健康的に成長できるように、愛情を注ぎ育てています。

検卵の様子

無精卵は腐って破裂する可能性があるため、選別作業を行う。

【有精卵】



【無精卵】



すみずみまで消毒を行い、伝染病などが発生しないよう、安全管理の面にも徹底して管理を行っています。



(有)川俣シャモファームでは、年間最大8万羽の雛の生産が可能です。また、全国46銘柄中15番目の生産羽数で、シャモ系の地鶏・銘柄鶏と比較すると27銘柄中7番目の生産羽数です。全国の地鶏の中でも高い需要を集めています。

(出所：(有)川俣シャモファームより)

生産年度	生産羽数
平成20年度	62,000羽
平成21年度	65,000羽
平成22年度	52,000羽
平成23年度	28,000羽
平成24年度	45,000羽
平成25年度	53,000羽
平成26年度	65,000羽
平成27年度	58,000羽
平成28年度	54,000羽
平成29年度	67,000羽